

受験番号

◎ 指示があるまで開かないこと。

令和4年2月16日 午前用

第73回獣医師国家試験 実地試験問題 (C)

注意事項

1. 問題数は60問であり、解答時間は2時間である。
2. 解答方法は次のとおりである。

〔1〕 各問題には5つの選択肢があるので、そのうち質問に適した答えを1つだけ選び、次の例にならって答案用紙にマークすること。なお、1問につき2つ以上マークした場合には、そのうちの1つが正答であっても誤りとして取り扱われる。

(例) 問61 我が国で獣医師国家試験事務を受けもっている省はどれか。

1. 厚生労働省
2. 文部科学省
3. 農林水産省
4. 外務省
5. 国土交通省

正答は「3」であるから、答案用紙の

61 E 1 ☐ E 2 ☐ E 3 ☑ E 4 ☐ E 5 ☐のうちE 3 ☑を横線で、
61 E 1 ☐ E 2 ☐ ~~E 3 ☑~~ E 4 ☐ E 5 ☐とマークすれば良い。

〔2〕 答案用紙のマークには、必ずHBの鉛筆を使用し、次の良い例のとおり、塗りつぶさずに線を引くこと。

良い例…… 悪い例……

〔3〕 答えを修正する場合は、必ずプラスチック製の消しゴムで完全に消し、消し跡や消しクズが残らないようにすること。消し方が悪いと採点されないの
で注意すること。

〔4〕 答案用紙は、折り曲げたり、メモやチェックなどで汚したりしないよう特に注意すること。

問1 猫、雑種、去勢雄、4歳齢。食欲低下および流涎を主訴に来院。〔図1〕は症例の口腔の外貌である。この疾患に関する記述として誤っているのはどれか。

1. 猫免疫不全ウイルスの感染が素因となる。
2. 病変部位にはリンパ球や形質細胞の浸潤がみられる。
3. 抜歯によって症状が軽減する。
4. コルチコステロイドの全身投与が行われる。
5. ほとんどの場合、症状は一過性である。

別冊 C

図 1

問2 〔図2〕は、SPF環境で飼育したアトピー性皮膚炎の疾患モデルマウスである。このマウスの標識遺伝子として正しいのはどれか。

1. *Abc*
2. *AbC*
3. *ABC*
4. *aBC*
5. *ABc*

別冊 C

図 2

問3 食中毒患者の胃から〔図3-A〕が抽出された。喫食した食品には〔図3-B〕の赤丸内に示す病原体が認められた。この食中毒に関する記述として適切なものはどれか。

1. 冷凍処理は予防に無効である。
2. 我が国で食中毒としての届出患者数が著しく減少している。
3. ヒトは終宿主である。
4. 病原体が抗原となるアレルギー反応によって蕁麻疹がみられることがある。
5. ヒラメが原因となることが最も多い。

別冊 C
図 3-A, B

問4 〔図4〕は吸入麻酔に用いる呼吸回路の模式図である。(ア)の装置はどれか。

1. 人工呼吸器
2. 二酸化炭素吸収装置
3. 気化器
4. 流量計
5. 酸素発生装置

別冊 C
図 4

問5 〔表5〕は、ある疾患に対する罹患の有無が既知の個体40頭（罹患20頭、非罹患20頭）について、検査結果をまとめたものである。この検査の敏感度と特異度の組合せはどれか。

- | 敏感度 | 特異度 |
|--------------------------------|----------------------------|
| 1. 93.3% (14 ÷ 15 × 100) | 76.0% (19 ÷ 25 × 100) |
| 2. 76.0% (19 ÷ 25 × 100) | 93.3% (14 ÷ 15 × 100) |
| 3. 95.0% (19 ÷ 20 × 100) | 70.0% (14 ÷ 20 × 100) |
| 4. 24.0% ((1 - 19 ÷ 25) × 100) | 6.7% ((1 - 14 ÷ 15) × 100) |
| 5. 70.0% (14 ÷ 20 × 100) | 95.0% (19 ÷ 20 × 100) |

別冊 C
表 5

問6 〔図6〕は牛の複胃であり、一部切開して内腔を見せている。矢印で指す部位に関する記述として正しいのはどれか。

1. 背囊と腹囊に分けられ、縦溝がみられる。
2. 多数の胃葉がみられる。
3. 固有胃腺が発達している。
4. 粘膜は蜂巢状に区画されている。
5. 幽門を示している。

別冊 C
図 6

問7 〔図7〕は馬の感染症の血清学的診断に用いられる検査法である。この検査が国際的な標準法として使用されている感染症はどれか。

1. 馬伝染性貧血
2. ウエストナイルウイルス感染症
3. 馬鼻肺炎
4. アフリカ馬疫
5. 馬モルビリウイルス肺炎

別冊 C
図 7

問8 犬、ドーベルマン・ピンシャー、去勢雄、1歳齢。去勢手術後出血が止まらなくなかった。血小板数は $22.8 \times 10^4 / \mu\ell$ であった。〔表8〕は止血に関する検査結果である。疑われる疾患はどれか。

- a 血友病 A
- b 血小板無力症
- c フォン・ヴィレブランド病
- d 免疫介在性血小板減少症
- e ビタミン K 欠乏症

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

別冊 C
表 8

問9 犬、雑種、避妊雌、11歳齢。ステロイドの長期投与を受けていたところ、全身性に皮膚の脱毛と鱗屑がみられた。〔図9-A〕は病変部のHE染色像（低倍）、〔図9-B〕はその拡大像である。皮膚の疾患名として最も適当なのはどれか。

1. 扁平上皮癌
2. 毛包虫症
3. スポロトリコーシス
4. マラセチア皮膚炎
5. 皮膚糸状菌症

別冊 C
図 9 - A, B

問10 豚の糞便検査により〔図10〕に示す虫卵が検出された。この寄生虫症に関する記述として適切なのはどれか。

- a 胎盤感染により流産や死産の原因となる。
- b 肝臓の病変は虫卵の胆管塞栓が原因となり形成される。
- c 肺に出血性肺炎を特徴とする病変が認められる。
- d プレパテントピリオドは6~8週間である。
- e 治療にはピリメタミンを用いる。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

別冊 C
図 10

問11 犬、トイ・プードル、去勢雄、8歳齢。耳の搔痒を主訴に来院。〔図11〕は耳垢のスタンプ標本の鏡検像（ギムザ染色、×400）である。この病原体に対する治療薬として適切なのはどれか。

1. イトラコナゾール
2. フェンベンダゾール
3. パモ酸ピランテル
4. プラジクアンテル
5. セファレキシシン

別冊 C
図 11

問12 犬、雑種、雌、2歳齢。保護犬であり、ワクチン接種歴が不明。元気消失、嘔吐、食欲廃絶を示し、斃死した。〔図12〕は肝臓のHE染色像である。本疾患に特徴的な病変として適切なのはどれか。

1. 肝紫斑病
2. にくずく肝
3. 肝臓のアミロイド変性
4. 胆嚢壁の水腫性肥厚
5. 鋸屑肝

別冊 C
図 12

問13 猫、雑種、去勢雄、2歳齢。1時間前に突然の流涎および頻回嘔吐がみられたとの主訴で来院。〔図13〕は採食が疑われた植物である。障害が最も疑われる臓器はどれか。

1. 脳
2. 肝臓
3. 心臓
4. 腎臓
5. 骨髄

別冊 C

図 13

問14 犬、柴、避妊雌、9歳齢。顔面、特に鼻背部、眼周囲、耳介を中心として皮膚のびらんや痂皮形成を認めた。〔図14〕は皮膚のHE染色像である。〔図14〕で示す病変と疑われる疾患名の組合せとして適切なのはどれか。

病変	疾患名
1. メラノファージ浸潤	フォークト・小柳・原田症候群
2. 境界部皮膚炎	エリテマトーデス
3. 表皮細胞のアポトーシス	多形紅斑
4. 膿疱	落葉状天疱瘡
5. ポトリエの微小膿瘍	皮膚リンパ腫

別冊 C

図 14

問15 〔図 15〕は北海道の海域に生息し、ヒトに食中毒を引き起こす貝である。この貝が保有する有毒成分はどれか。

1. サキシトキシン
2. プレベトキシン
3. テトラミン
4. オカダ酸
5. ベネルピン

別冊 C
図 15

問16 〔図 16〕は下痢が続いている子犬の糞便から検出された虫卵である。最も疑われる寄生虫はどれか。

1. 犬回虫
2. 犬鞭虫
3. 毛細線虫
4. 瓜実条虫
5. マンソン裂頭条虫

別冊 C
図 16

問17 牛、ホルスタイン種、雌、5歳齢。右後肢の跛行が認められた。〔図17〕は削蹄時の右後肢の外貌である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 白帯病（白線裂）
2. 蹄底潰瘍
3. 趾間皮膚炎（趾間フレグモーネ）
4. 趾皮膚炎
5. 蹄球びらん

別冊 C
図 17

問18 〔図18〕は猫の皮膚の結節性病変より作成されたスタンプ標本の鏡検像である（チール・ネルゼン染色）。最も疑われる疾患はどれか。

1. 猫ひっかき病
2. 潰瘍性皮膚炎
3. 猫クラミジア症
4. 皮膚糸状菌症
5. 壊死桿菌症

別冊 C
図 18

問19 犬、ミニチュア・シュナウザー、避妊雌、7歳齢。週に3回ほど生じる失神を主訴に来院。〔図19〕はホルター心電図検査の結果である。最も疑われる疾患・病態はどれか。

1. 心房細動
2. 房室ブロック
3. 心房性期外収縮
4. 心室性期外収縮
5. 洞停止

別冊 C

図 19

問20 犬、ラブラドル・レトリバー、避妊雌、8歳齢。1か月前に左腋窩部のむくみを主訴に来院。治療によりむくみが取れた後、同部皮下に小卵大の硬結腫瘍がみられた。〔図20 - A〕は病変部の HE 染色像（低倍）、〔図20 - B〕はその拡大像である。最も疑われる疾患はどれか。

1. リンパ腫
2. 悪性組織球症
3. 肥満細胞腫
4. 好酸球性肉芽腫
5. 炎症性乳癌

別冊 C

図 20 - A, B

問21 牛、ホルスタイン種、雌、8歳齢。分娩後4日目に食欲減退、胸垂浮腫を認めた。尿検査ではタンパク質が検出された。血清総タンパク質濃度は3.4 g/dlであった。〔図21〕は血清タンパク質の電気泳動の結果である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 創傷性心膜炎
2. 後大静脈血栓症
3. ヨーネ病
4. 糸球体腎炎
5. 乳熱

別冊 C

図 21

問22 〔図22〕は発育鶏卵内部の模式図である。尿膜腔はどれか。

1. A
2. B
3. C
4. D
5. E

別冊 C

図 22

問23 豚、交雑種、雌、約 60 日齢。母豚規模約 400 頭の一貫経営農場において離乳豚に呼吸器症状が認められた。〔図 23 - A〕は死亡豚の肺の病理組織像（HE 染色）、〔図 23 - B〕はある病原体に対する免疫組織化学的染色像である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 豚インフルエンザ
2. 豚パストレラ症
3. ニューモシスチス肺炎
4. グレーサー病
5. 豚繁殖・呼吸障害症候群

別冊 C
図 23 - A, B

問24 10 週齢のヌードマウスが〔図 24 - A〕のようになり呼吸困難で死亡した。〔図 24 - B〕は肺胞内滲出物の鏡検像である（メテナミン銀染色、×625）。最も疑われる疾患はどれか。

1. エンセファリトゾーン症
2. コクシジウム症
3. 皮膚糸状菌症
4. 肺炎球菌病
5. ニューモシスチス症

別冊 C
図 24 - A, B

問25 〔表 25〕は、厚生労働省に発生の届出があったある食中毒の過去3年間の統計である。この食中毒の病因物質はどれか。

1. ノロウイルス
2. ウェルシュ菌
3. セレウス菌
4. 腸管出血性大腸菌
5. カンピロバクター・ジェジュニ／コリ

別冊 C
表 25

問26 猫、雑種、雄、7か月齢。腹囲膨満と食欲低下を主訴に来院。発熱（40.5℃）および腹水貯留が認められた。〔図 26 - A〕は採取した腹水の肉眼像である。腹水の比重は > 1.040 、総蛋白は 7.8 g/dl 、細胞数は $5,200/\mu\text{l}$ であった。〔図 26 - B〕は腹水の塗抹標本の鏡検像（ギムザ染色、 $\times 1,000$ ）である。最も疑われる疾患・病態はどれか。

1. 消化管穿孔
2. リンパ腫
3. 猫伝染性腹膜炎
4. うっ血性心不全
5. 肝硬変

別冊 C
図 26 - A, B

問27 牛、ホルスタイン種、雌、7歳齢。分娩後に発情が回帰しないとのことで診察した。〔図27〕は右卵巢の超音波像である。左卵巢には直径1 cm未満の卵胞が数個認められた。血漿プロジェステロン濃度は1.6 ng/mlであった。最も疑われる疾患はどれか。

1. 卵巢静止
2. 卵胞嚢腫
3. 黄体嚢腫
4. 嚢腫様黄体
5. 無排卵

別冊 C

図 27

問28 〔図28 - A〕および〔図28 - B〕はそれぞれ、1979年および2020年9月17日の南極上空におけるある物質の濃度分布状況を示している。この現象を引き起こしている化学物質はどれか。

1. フロン類
2. 硫黄酸化物
3. ホルムアルデヒド
4. アセトン
5. PAN（ペルオキシアシルナイトレート）類

別冊 C

図 28 - A, B

問29 牛、ホルスタイン種、雌、3歳齢。突然の乳量激減が認められた後、起立不能となり、〔図29〕のような糞便を排泄した。最も疑われる疾患はどれか。

1. 大腸菌症
2. 牛コロナウイルス病
3. 盲腸拡張症
4. コクシジウム症
5. 出血性腸症候群

別冊 C

図 29

問30 牛、ホルスタイン種、雌、4歳齢。分娩後16日目に食欲不振を呈した。膣検査では膣内に液体が認められ、直腸検査では膨満した子宮が触知された。〔図30 - A〕は子宮の超音波検査像、〔図30 - B〕は子宮洗浄により回収された液体である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 子宮内膜炎
2. 子宮蓄膿症
3. 胎盤停滞（後産停滞）
4. 悪露停滞症
5. 子宮水症

別冊 C

図 30 - A, B

問31 〔図 31 - A, B〕は「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（外来生物法）」において特定外来生物に指定されている生物種である。〔図 31 - C〕における赤いスポットはこの生物種の分布情報が得られた地点である。この生物種はどれか。

1. オポッサム
2. フイリマングーズ
3. マスクラット
4. ニートリア
5. カピバラ

別冊 C
図 31 - A, B, C

問32 犬、ラブラドル・レトリバー、去勢雄、1歳齢。1か月前から下痢が続いているとの主訴で来院。〔図 32〕は消化管の超音波検査像である。最も疑われる疾患はどれか。

1. リンパ腫
2. 腸腺癌
3. 腸リンパ管拡張症
4. 腸内異物
5. 腸重積

別冊 C
図 32

問33 犬、ポメラニアン、避妊雌、12歳齢。左側胸部皮下に腫瘤が認められ、数か月後に急激に大きくなったため摘出した。〔図33 - A〕は腫瘤の病理組織像(HE染色)、〔図33 - B〕はある細胞骨格マーカーを用いた免疫組織化学的染色像である。用いた細胞骨格マーカーとして適切なのはどれか。

1. デスミン
2. ケラチン
3. グリア線維性酸性蛋白
4. α -SMA
5. ニューロフィラメント

別冊 C
図 33 - A, B

問34 〔図34〕の植物に含まれる循環器毒性物質はどれか。

1. サイカシン
2. アコニチン
3. オレアンドリン
4. アフラトキシン
5. プタキロサイド

別冊 C
図 34

問35 〔図 35〕は早産にて娩出された死亡胎子（黒毛和種、雄）である。推定死亡月齢として最も適切なのはどれか。

1. 0.5 か月齢
2. 1 か月齢
3. 2 か月齢
4. 4 か月齢
5. 8 か月齢

別冊 C
図 35

問36 〔図 36〕は国内の牛におけるある家畜感染症の発生状況を示している。この感染症はどれか。

1. 口蹄疫
2. 炭疽
3. 牛疫
4. ヨーネ病
5. 牛海綿状脳症

別冊 C
図 36

問37 〔図 37 - A〕は沈うつ状態になり死亡した鶏の翼下部の写真である。異臭を放つ患部から〔図 37 - B〕の細菌が分離された（グラム染色、×1,000）。原因菌として最も疑われるのはどれか。

1. *Staphylococcus aureus*
2. *Mycobacterium avium* subsp. *avium*
3. *Mycoplasma synoviae*
4. *Campylobacter jejuni*
5. *Borrelia anserina*

別冊 C
図 37 - A, B

問38 犬、ミニチュア・ダックスフンド、去勢雄、12 歳齢。皮膚に多発性腫瘍が認められるとの主訴で来院。〔図 38 - A〕は腹部の外貌、〔図 38 - B, C〕は腫瘍の病理組織像（HE 染色、B：×100、C：×400）である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 肥満細胞腫
2. 血管周皮腫
3. 血管肉腫
4. 扁平上皮癌
5. 悪性黒色腫

別冊 C
図 38 - A, B, C

問39 〔図 39〕は気管挿管による全身麻酔下で撮影したミニチュア・ダックスフンドの頭部 CT 像（矢状断像）である。咽頭鼻部（鼻咽頭）はどれか。

1. a
2. b
3. c
4. d
5. e

別冊 C 図 39

問40 犬、雑種、雄、3 か月齢。発熱、鼻汁、くしゃみ、食欲低下を主訴に来院。身体検査にて四肢の肉球と鼻鏡の角質化を認めた。〔表 40 - A〕は血液検査結果、〔図 40 - B〕は眼の外貌である。本症例の眼病変に関する記述として正しいのはどれか。

1. 初期に膿性の眼漏が認められる。
2. 片眼性であることが多い。
3. 涙腺炎が起こるとドライアイとなる。
4. 回復期に青白い角膜混濁が認められる。
5. 治療として瞬膜フラップを実施する。

別冊 C 図表 40 - A, B

問41 馬、サラブレッド種、雄、4歳齢。調教後に左前肢の跛行を呈した。〔図41 - A〕は患肢の外貌、〔図41 - B〕は患部の掌側面からの超音波横断像である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 浅屈腱炎
2. 深屈腱炎
3. 繋靭帯炎
4. 皮下織炎
5. 深屈腱支持靭帯炎

別冊 C
図 41 - A, B

問42 犬、ミニチュア・ダックスフンド、去勢雄、11歳齢。去勢手術を行った翌日、呼吸状態の悪化を認めた。身体検査では重度の脱水および発熱（39.6℃）が認められ、全血球計算では好中球数の増加が認められた。〔図42 - A, B〕は胸部X線像（A：側方像、B：背腹像）である。最も疑われる疾患・病態はどれか。

1. 肺水腫
2. 胸水貯留
3. 吸引性肺炎
4. 転移性肺腫瘍
5. 気管支拡張症

別冊 C
図 42 - A, B

問43 〔図 43〕はある人獣共通感染症の我が国におけるヒトの死亡数と各種動物での発生数である。この感染症またはその病原体に関する記述として適切なのはどれか。

1. 土壌細菌である。
2. ベクターはコロモジラミである。
3. 予防として BCG ワクチン接種が行われている。
4. 「家畜伝染病予防法」で特定家畜伝染病防疫指針が定められている。
5. 曝露後免疫によって発症を予防できる。

別冊 C

図 43

問44 犬、ポメラニアン、避妊雌、9歳齢。発咳を主訴に来院。〔図 44 - A, B〕は頸胸部単純 X 線側方像（A：呼気時、B：吸気時）である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 気管炎
2. 気管内腫瘍
3. 気管損傷
4. 気管虚脱
5. 気管内異物

別冊 C

図 44 - A, B

問45 猫の体表から体長約 2 mm の虫体が検出された〔図 45〕。この寄生虫が媒介する疾患はどれか。

1. 猫条虫症
2. 瓜実条虫症
3. 壺形吸虫症
4. 猫胃虫症
5. 東洋眼虫症

別冊 C
図 45

問46 飛翔できなくなったみつばちを解剖したところ、気管に〔図 46 - A〕のような所見が観察された。〔図 46 - B〕は気管内から取り出したものの写真である。この病原体はどれか。

1. ワクモ
2. ヒゼンダニ
3. ミツバチヘギイタダニ
4. アカリンダニ
5. ササラダニ

別冊 C
図 46 - A, B

問47 犬、トイ・プードル、避妊雌、1歳齢。昨日、ソファから飛び降りた後、ふらつくようになったという主訴で来院。神経学的検査の結果、頸部神経の損傷が疑われた。〔図47 - A, B〕は頸部X線像（A：側方像、B：腹背像）である。本症例の手術法として最も適当なのはどれか。

1. 腹側減圧術
2. 片側椎弓切除術
3. 腹側椎体固定術
4. 椎間板造窓術
5. 背側椎弓切除術

別冊 C
図 47 - A, B

問48 馬、サラブレッド種、雄、4歳齢。右眼の羞明と流涙を認めた。〔図48〕は右眼の外貌である。この寄生虫はどれか。

1. 指状糸状虫 (*Setaria digitata*)
2. 馬糸状虫 (*Setaria equina*)
3. 唇乳頭糸状虫 (*Setaria labiatopapillosa*)
4. 網状糸状虫 (*Onchocerca reticulata*)
5. 頸部糸状虫 (*Onchocerca cervicalis*)

別冊 C
図 48

問49 犬、キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル、雌、2歳齢。頸部や体幹の強い搔痒と軽度のふらつきを主訴に来院。神経学的検査では四肢の固有位置感覚の低下が認められ、前肢が滑って開脚する傾向が認められた。〔図49〕は症例の頭部MRI検査T2強調矢状断像である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 神経セロイド・リポフスチン症
2. キアリ様奇形
3. 肝性脳症
4. 髄膜腫
5. 壊死性髄膜脳炎

別冊 C

図 49

問50 鶏が呼吸器症状を示し、死亡した。剖検では気管に〔図50 - A〕の病変が認められた。〔図50 - B〕は病変部の組織染色像（HE染色、×250）である。病変部位を発育鶏卵に接種したところ〔図50 - C〕の左に示す変化が認められた（右は未接種対照）。本疾患に関する記述として正しいのはどれか。

- a ヘルペスウイルス科のウイルスが原因である。
- b 血痰を特徴とする。
- c 吸血節足動物が機械的に伝播する。
- d 翼膜穿刺によるワクチン接種が行われる。
- e 介卵感染が認められる。

1. a, b
2. a, e
3. b, c
4. c, d
5. d, e

別冊 C

図 50 - A, B, C

問51 犬、雑種、去勢雄、9歳齢。頭部の左側のみが痩せてきて気になるとの主訴で来院。身体検査では左眼の角結膜炎と左頬の口腔粘膜潰瘍が認められた。〔表51〕は神経学的検査結果である。障害が疑われる神経として最も適切なのはどれか。

1. 視神経
2. 動眼神経
3. 三叉神経
4. 顔面神経
5. 内耳（前庭）神経

別冊 C 表 51

問52 牛、ホルスタイン種、雌、3か月齢。発育が悪く、元気がないということで診察したところ、右心基底部に最強点を有する心雑音が聴取された。〔図52〕は右心基底部における心音図（PCG）、およびAB誘導による心電図（ECG）所見である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 創傷性心膜炎
2. 拡張型心筋症
3. 後大静脈血栓症
4. 動脈管開存
5. 心室中隔欠損

別冊 C 図 52

問53 猫、雑種、去勢雄、14歳齢。3か月前からの間欠的な発作を主訴に来院。最近発作の頻度が増している。〔図53 - A, B, C, D〕は頭部MRI横断像（A：T1強調像、B：T2強調像、C：FLAIR像、D：造影T1強調像）である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 髄膜腫
2. 壊死性髄膜脳炎
3. 水頭症
4. 特発性てんかん
5. 肝性脳症

別冊 C
図 53 - A, B, C, D

問54 育成牛が斜頸と旋回運動を呈し、起立不能に陥り死亡した。〔図54 - A〕は脳幹部の組織染色像（HE染色）である。〔図54 - B〕は脳から分離された細菌である（グラム染色、×1,000）。最も疑われる疾患に関する記述として正しいのはどれか。

- a 輸送直後の発生が多い。
- b 血栓栓塞性髄膜脳脊髄炎を呈する。
- c 劣化したサイレージが原因になることがある。
- d 病原菌は自然環境中に広く分布する。
- e 牛特有の疾患である。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

別冊 C
図 54 - A, B

問55 牛、ホルスタイン種、雌、2歳齢。〔図55〕は分娩経過中のある時点での陰部の様子である。矢印で示すのは何か。

1. 尿膜絨毛膜
2. 尿膜嚢
3. 羊膜胞（足胞）
4. 胎子頭部
5. 胎子胎盤

別冊 C
図 55

問56 猫、雑種、去勢雄、1歳齢。高所から落下後に左前肢を挙上したとの主訴で来院。〔図56〕は患肢のX線頭尾側像である。本症例の骨折は、ソルターハリス分類の何型か。

1. I型
2. II型
3. III型
4. IV型
5. V型

別冊 C
図 56

問57 地下水を利用しているフリーストール牛舎で乳房炎が発生した。〔図 57〕は乳汁から分離された病原体の鏡検像である（グラム染色、×1,000）。原因として最も疑われるのはどれか。

1. *Streptococcus* 属
2. *Corynebacterium* 属
3. *Trueperella* 属
4. *Prototheca* 属
5. 酵母様真菌 (Yeast)

別冊 C
図 57

問58 成牛が急死し、天然口からの出血から莢膜染色陽性の細菌が確認された。〔図 58 - A〕は血液寒天培地で細菌分離を行った結果である。〔図 58 - B〕は分離された細菌をペニシリン入りの培地で培養した結果である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 炭疽
2. 気腫疽
3. 破傷風
4. 壊死桿菌症
5. 大腸菌症

別冊 C
図 58 - A, B

問59 〔図 59〕は犬の腹部の超音波検査像である。病変（ア）として最も疑われるのはどれか。

1. 膀胱腫瘍
2. 傍前立腺嚢胞
3. リンパ節腫大
4. 膀胱結石
5. 尿管拡張

別冊 C

図 59

問60 犬、ミニチュア・ダックスフンド、去勢雄、9歳齢。血便としぶりを主訴に来院。血液検査ではCRPの軽度上昇が認められた。〔図 60 - A〕は直腸の内視鏡検査像、〔図 60 - B, C〕は病理組織像（HE染色、B：×100、C：×400）である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 炎症性結直腸ポリープ
2. 組織球性潰瘍性結腸炎
3. リンパ腫
4. 腺癌
5. 平滑筋肉腫

別冊 C

図 60 - A, B, C

